



深田久弥

山の文化館だより

令和4年
春号

深田久弥 山の文化館
〒921-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(二)七二一三三三一
FAX 〇七六(二)七二一三三二一

瓦葺き替え完成

本館事務所棟の屋根瓦の葺き替え工事が完了しました。工期が迫るなか、早春の晴れ間を上手に使い立派に完成しました。長年手を加えてなかった様で、瓦をまくと「木端」が葺いてありました。きれいな裏板を打ち、当地特有の赤瓦の屋根がよみがえりました。完成した屋根の写真と、上った時に撮った真っ白な白山の写真添えます。



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その17

山の文化館展示室には、国師岳の山頂でザックを前に置き腰掛ける深田久弥の写真パネルが展示してある。この写真に関する地形図と作品を探した。地形図は「金峰山」とすぐ分かり、出して見ると大変多くの書込みと赤鉛筆のラインがあった。「国師岳」が題名に入っている作品はなく、この国師岳行について書いた作品は「甲武信岳今昔」だった。この文章から行程をたどったが、笛吹川西沢の京の沢出合いから国師岳までは赤鉛筆のラインがあったがその先はラインがなかった。この山行のラインではないようである。深田久弥たち一行は、七ツ釜の西沢温泉（現在は見当たらない）に一泊し、翌日京の沢から国師岳に登っている。そして、奥秩父最高峰の北奥仙丈岳（当時地図に表記はなかった）に登り、大弛小屋に泊まった。そして翌日甲武信岳に向かっている。昭和三十九年九月、久弥六十一歳の時の山行である。

今回は赤鉛筆から外れるが話を進めたい。この国師岳の写真は、平成十五年七月に発行された、深田久弥生誕百年記念切手の深田久弥を描いた原画のモデルである。切手の背景



「早春の白山」



【国師岳にて】

は「早春の白山」と題する版画で、九山山房の蔵書票を作った版画家大谷一良の作品である。（原画は山の文化館に展示している）

一昨年我々は、この写真を撮った場所を特定したくて大弛峠から国師岳に登った。いろいろ思案してみたが、場所を特定することは出来なかった。久弥が踏んだと同じところに立てたことに満足して下山した。もちろん北奥仙丈岳に寄ることは忘れなかった。

「金峰山」と「三峰」の地形図には、とても多くの書込みと赤鉛筆のラインがあるが、それらの説明は次回にまわすことにする。

参考：「甲武信岳今昔」 || 『山頂の憩い』

深田久弥ゆかりの地

江沼神社文学碑 「山恋の碑」

天満さん、こと大聖寺の江沼神社を訪ねた。ここに深田久弥氏の【山恋の碑】があるからである。折しも白梅紅梅が見頃を迎え、良い香りと共に春の訪れを告げていた。

本を半開きに立てた形をして、赤みを帯びた御影石の碑は、昭和四十九年四月二十一日に建てられたものであるが、久弥夫人志げ子さん著『私の小谷温泉』の中に、久弥氏との思い出を綴った「山恋の碑」と題する文章があり、この碑が建てられた当時の詳しいいきさつが述べられている。

刻まれている四行詩のこと、陶板や深田氏の筆跡、古代の祭器をかたどった花台のこと等、当時、文学碑建立にたずさわった氏のゆかりの人たちのこだわりとご苦労が偲ばれる。

文中の一節には、「生涯前向き姿勢で貫いた一人の男の碑が、愛した故郷の片隅に知己の善意によって出来るのなら」とか、「夫の本質はやはり文人だったかと」ある。

静かな故郷の一角で、深く静かに山への憧れを語りかけてくるような文学碑を改めて見つめると、志げ子夫人が書かれているように、穏やかでともに山を思い、じっと佇んでいたくなるような気分させられた。



山の苗を顧みて
一つの山を終りけり
何の俣のわが心
早も急かるる次の山

この一冊

この一冊とあるが、昭和二十九年六月から十月にかけて発行された『山岳講座』全六巻である。編集は川崎隆章、近藤等の両氏である。深田久弥は「出版ダイジェスト」という業界新聞に紹介記事を寄稿している。その中で、登山は他のスポーツと異なるのだと説き、「この講座には実践的な教えもあれば自然科学の記事もあり、詩歌や絵画などの情動的な文章にも事欠かない。」と述べているように多彩な内容の講座である。

間こう会予定

新型コロナウイルスの流行の中で、間こう会はリモートで二会場形式にて実施しています。
(聴講無料)
午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房他

■五月十五日(日)
演題…白山の鳥たち
講師…西野英一氏(石川県自然解説員)

■六月十九日(日)
演題…日本百名山を登り終えて
講師…常橋憲一氏

■七月十日(日)
演題…昆虫はおもしろい(加賀市編)
講師…富沢 章氏(石川むしの会会長)
※小学生親子対象

読書会のお誘い

『日本百名山』など深田久弥の作品を読んで、山やその自然、文化について語りあっています。お気軽にご参加下さい。(参加無料)

四月十五日(金)
『日本百名山』より「谷川岳」

五月二十日(金)
『日本百名山』より「大峰山」

六月二十四日(金)
『日本百名山』より「羅臼岳」

●場所 深田久弥山の文化館
●時間 午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

春めいて、あちこちから桜の便りが聞かれます。大聖寺川沿いの桜も色付き始めました。山ではカタクリの花が見られることでしょうか。
コロナの終息を願うばかりです。

(Y)

各種お知らせ詳細はホームページをご覧ください

深田久弥山の文化館ホームページ <http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun>